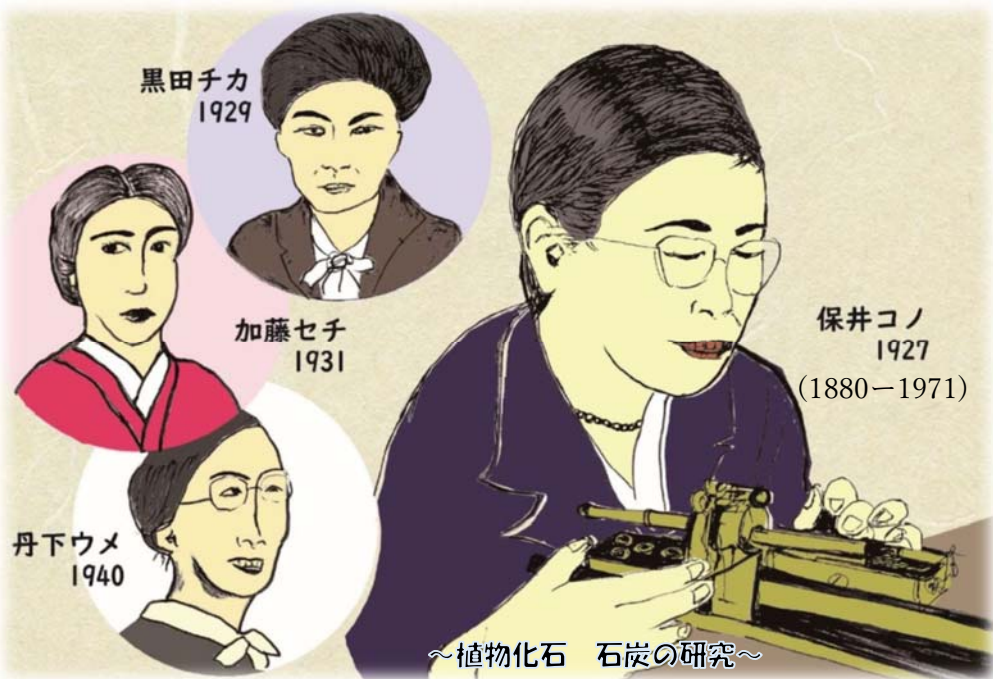


桜蔭会 120 周年記念 香川支部講演会



「日本初の女博士

讃岐が生んだ

保井コノはほんまもん」

女高師↓東京女高師↓お茶の水女子大学、と時代を生きた女性科学者のパイオニア

保井コノ先生は、明治13年に讃岐国大内郡（東

かがわ市）三本松村で生まれ、高松の県立師範学

校（後の香川大学教育学部）を経て、東京女子高

等師範学校理科に進み、卒業後教員になります。

その後研究の道に入り、研究生にして、しかも

日本女性として初めて、外国の専門誌に論文が掲

載されます。シカゴ大学・ハーバード大学留学を

経て、帰国後も研究を続け東京帝大理学部から日

本初の女性博士として学位記を授与されました。

また女子の国立大学発足にも大いに尽力され、

お茶の水女子大学名誉教授を72歳で退官、1971

年（昭和46年）に享年91歳で逝去されました。

時を経て2020年にはお茶の水女子大学賞とし

て、お名前を冠した「保井コノ賞」が創設され、

今なお若い研究者の励みとなっておられます。

うどんだけでない「さぬきのほんまもん、保井

コノ先生」は、日本女性科学者のパイオニアであ

り、言わば日本のマリー・キュリーです。

（▼讃岐人としてお茶大の後輩として、もっと多くの

方に保井コノ先生の足跡と情熱を知っていただきたい

いと願い、今回の記念講演を企画いたしました。）

令和6年11月9日(土)11:10~12:30・栗林公園内花園亭にて・講演会無料（入園料別途）

講師：吉祥 瑞枝（きっしょう みづえ）博士 学術（お茶の水女子大学）CSJ フェロー
（一社）研究・イノベーション学会副会長 サイエンススタジオ・マリー主宰

讃岐（香川県）出身。お茶の水女子大学（物理学科）卒。丸亀高校在学中に日本女子代表として ISEF 米国カンザスシティに派遣、「銅アンモニア絹糸の研究」で入賞。放送大学一期生 産業と技術専攻。専門は、女性と STEM [Science (科学) Technology (技術) Engineering (工学) Mathematics (数学)]。日本化学会化学教育賞受賞他。

著書:キュリー夫人の理科教室（丸善）キュリー夫人の玉手箱（東京書籍）など多数。

